

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2024～2025 年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「奉仕の実践を通じ、求められ、

必要とされるロータリアンに」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：大藪 太

副会長：土屋 敏幸

幹事：後藤 政之

会報：北原 慎

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL (0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

前例会の記録 第 2170 回

2025年3月13日(木)

卓話 岐阜県議会議員 若井 あつこ 様

場所 例会場(関観光ホテル)

担当 職業奉仕委員会

本日のプログラム 第 2171 回例会 2025年4月2日(水)

3RC 合同花見例会

担当：会長・幹事

*ロータリーソング「我等の生業」 斉唱

*会長あいさつ 大藪 太 会長
皆さんこんばんは。本日のお客様を紹介致します。岐阜県議会議員・若井あつこ様です。若井様には後ほど卓話をよろしくお願いいたします。



さて3月6日(木)、岐阜県下にノロウイルス食中毒警報が発表されました。令和7年2月下旬からノロウイルスを原因とした食中毒事件が続発しています。ノロウイルスは、感染性胃腸炎を引き起こす代表的なウイルスの一つで、特に冬場に流行します。感染力が非常に強く、わずかなウイルス量でも感染・発症するため、注

意が必要です。ノロウイルスの症状としては、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などです。潜伏期間は感染してから発症するまで24～48時間程度です。またその持続期間ですが、症状は通常1～2日程度で回復しますが、乳幼児や高齢者などでは重症化することがあります。感染経路は経口感染が主な経路で、食品や水を介して感染するほか、人から人への感染もあります。生存力は乾燥や低温に強く、環境中で比較的長く生存できます。感染原因としては、食品からの感染として、ノロウイルスに汚染されたカキなどの二枚貝を生または十分に加熱せずに食べた場合。ノロウイルスに感染した人が調理した食品を食べた場合。人からの感染として、感染者の嘔吐

物や便に触れた手指を介して口に入る場合。感染者の嘔吐物や便が乾燥して空気中に漂い、それを吸い込んだ場合。その他として、ノロウイルスに汚染された水や物品に触れた場合などがあります。感染してしまった場合の処置ですが、ノロウイルスに対する特效薬はなく、治療は対処療法が中心となります。まず大切なのが水分補給、嘔吐や下痢による脱水症状を防ぐため、経口補水液などでこまめに水分を補給します。次に安静、十分な休息を取り、体力の回復を待ちます。そして食事、消化の良いものを少量ずつ摂取します。ノロウイルスの予防対策としては、一番大切なのが手洗い、調理前、食事前、トイレの後、外出後などは、石けんと流水で十分に手を洗い、特に指先、指の間、手首などを丁寧に洗うことが大切で、これらはコロナ予防、インフルエンザ予防にも言われたことですが、コロナ禍では徹底していたこれら予防策が、少し気が緩んで実行されていない面もあると思われます。次に食品の加熱、カキなどの二枚貝は、中心部まで充分に加熱(85~90度Cで90秒以上)してから食べる。そして調理器具の消毒、調理器具は使用後に塩素系漂白剤などで充分消毒をする必要があります。また嘔吐物、便を処理する際は、使い捨ての手袋とマスクを着用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取り、塩素系漂白剤で消毒をする。そして処理後は手洗いをしっかりすること。そして出来れば感染者がいる場合は、出来るだけ接触を避けることが大切です。特に注意すべきこととして、乳幼児や高齢者は、重症化しやすいため日頃の予防対策が必要になります。ノロウイルスは感染力が非常に強いため、家庭や会社、学校などの施設で発生することがありますので、感染が疑われる場合は迷わず医療機関を受診することが大切です。岐阜県によりますと県内での「ノロウイルス食中毒警報」の発表は令和5年2月27日以来だということです。先日発症した岐南町の仕出し業者が製造した弁当による、集団食中毒は患者が300人を超えました。また岐阜県全体では今年に入り食中毒の件数が5件、症状が出た人が396人に上っています。食中毒警報は12日(水)に解除されましたが、その後注意報に切り替わり、3月31日まで続きます。これからもまだ寒い日が続くと思われるので、十分な予防対策をして、食中毒に感染しないよう気をつけたいものです。

*2024-25年度ポール・ハリスフェロー表彰

PHF 3 Blue Stones Lapel Pin	高井 良祐 会員
	古田 育則 会員
	前田 仁夫 会員
	小川 糧司 会員
	川上 勉 会員
PHF2 Blue Stones Lapel Pin	山田 文夫 会員
	古田 博文 会員
	西田 健一 会員
	山本 義樹 会員
	喜久生 明男 会員
PHF 1 Blue Stone Lapel Pin	伊佐地 金嗣 会員
	波多野 好文 会員
PHF No Stone Lapel Pin	石原 妙生 会員
	北原 慎 会員
	長谷部 貴司 会員



*卓 話

岐阜県議会議員
若井 あつこ 様
テーマ



『可能性への挑戦』

私は空手道界のエリートではありません。空手を習い始めたきっかけは、4歳の頃に遭遇した交通事故でした。無免許の青年が運転する暴走バイクに正面衝突され重傷を負い、3ヶ月の寝たきり生活、4ヶ月間の入院生活を強いられ、退院後も後遺症に悩まされていた娘の将来を案じた両親が、身体を鍛える目的で小学1年の時に空手道を勧めました。空手道を習い始めたものの、人より勝る体力もなく、試合では勝つことができず社会人になっても「勝てない」時代を過ごしていました。しかし、当時は20才前後が「スポーツ界の花形」と言われていた時代のなかで、私は遅咲きながら社会人になって世間から認められ、27歳で世界選手権初優勝、33歳で前人未到の世界選手権4連覇を果たすことができました。確かに年齢的には「遅咲き」ですが、今振り返れば勝てない時代に培った「反骨精神」があったからこそ世界一になることができたのだと感じています。近道とは真つすぐ進む一本道だけではなく、一見遠回りをしたようでも、私にとってこれが夢への近道だったのではないかと思います。「本当の勝者」とは、目先にある小さな花を咲かせたものではなく、その先の大輪の花を咲かせたものこそ「真の勝者」であることを、身をもって学ぶことができました。また、自分自身の経験や、指導者となり多くの選手と向かい合う中で、初めから強い選手や、ずっと勝ち続ける選手はいないと言うことを、新たに学びまし



た。勝負は、強くなければ勝てません。しかし、強さゆえのおごりや、限界を知ることの挫折、迷いや誘惑、年齢的な衰えなど、永遠に勝ち続けることは不可能であり、だからこそ本当の強さとは力で相手に打ち負かすことではなく、挫折に打ち克つ心や負けない心こそが、本当の強さだと考えます。しかし、挫折を乗り越えることは簡単ではなく、過去に私も挫折に負けてしまうほどの辛い経験をしました。それは私が世界選手権3連覇中だった頃に出場した静岡国体でした。私は優勝候補筆頭に挙げられていながら、無名の大学生に初戦で敗北を喫し、これまで経験したことのない痛烈な苦しみを知ることになりました。当時の私の生活は空手が全てで、空手以外の夢をみたことがなかった私は、孤独の中で自暴自棄になり、社会との関わりを拒否し、生きていくことさえ嫌になることもありましたが、再び空手の道を歩むことを決意しました。なぜならば、敗北感に苛まれるなかで気が付いたことは、私の世界チャンピオンとしての誇りとは、これまで手にしたタイトルでもメダルでもなく、空手に懸けてきた姿勢「生き様」でなくてはならないということでした。そして、これからはどんなことがあっても二度と逃げ出したりしないと決意し、その「逃げない本気の覚悟」が、私を新たな可能性「前人未到の世界選手権4連覇」



へと導いてくれました。もしも、静岡国体の敗北で自分の人生を諦めていたのならば、今の私はありません。100回やってもできないからと諦めるのも一つの選択ですが、101

回目のできるようになることがあります。そして、これからはどんなことがあっても二度と逃げ出したりしないと決意し、その「逃げない本気の覚悟」が、私を新たな可能性「前人未到の世界選手権4連覇」へと導いてくれました。もしも、静岡国体の敗北で自分の人生を諦めていたのならば、今の私はありません。100回やってもできないからと諦めるのも一つの選択ですが、101回目のできるようになることがあります。なぜならば、100回やっ

てもできなかった経験があったからこそ、101回目の成功を導いたのです。人はそれぞれ歩むスピードが違います。たとえ時間がかかろうとも、山頂を目指し自分の足で一歩一歩を進むからこそ、誰



にも気が付かれずにひっそりと咲く1輪の花を見つけることができ、道の途中で疲れている人がいたならば肩を貸すことができます。効率や生産性だけを求めるのではなく、これもひとつの生き方なのではないでしょうか。「人見るもよし、見ざるもよし、われは咲くなり」これからも可能性を信じて、未来創生に挑戦してまいります。

*出席委員会

会員数 30 名、本日の出席 17 名です。

*ニコボックス委員会

・会長 副会長 幹事

若井様、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。本日の卓話、楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

・高井 良祐 会員

本日はスギ花粉の飛散が多くて鼻水タラタラ…くしゃみ連発でゴルフになりませんでした。

17 名のご投函ありがとうございました。



<次例会の案内>

第 2172 回

2025 年 4 月 10 日 (木)

『 C.A 会長エレクト研修セミナー報告 』

担 当： 次期会長・幹事